

地域資源を活用した新商品開発事業報告（陶磁器）

水野加奈子*，榊谷幹雄**，伊瀆啓一*，新島聖治**

Project Report of Promotion Program on Development of Ceramics with Regional Resources

Kanako MIZUNO，Mikio SAKAKIYA，Keiichi IHAMA and Seiji NIJIMA

1. はじめに

三重県の地域資源である四日市萬古焼，伊賀焼は，長引く不況の中，安価な海外製品の輸入が急増しており，さらに国内他陶磁器産地との競争も年々激しくなっている．

そこで，本事業では，これらの競争に対抗するため，それぞれの陶磁器産地に関係する多様な主体の連携を深めるための連絡会議を開催した．

また，当室保有の研究成果を紹介し，実用化するためのニーズ発掘を図り，共同研究による新商品開発を推進するための連携研究会を開催したので，ここに報告する．

2. 連絡会議及び連携研究会の開催

四日市萬古焼，伊賀焼に関連する団体，商工会・商工会議所，市町，支援機関等の多様な主体と県による連絡会議（表 1）を開催して，情報共有を図った．

また，事業者を交えた連携研究会を開催（表 1）し，当室保有の研究成果である『低火度磁器素地の製造技術』と『マイクロ波発熱性陶磁器素地の製造技術』を紹介して技術ニーズの把握を図った．

さらに，“人間生活工学”という新しいものづくりの視点を学ぶため，伊賀焼・四日市萬古焼連携研究会（表 1）の中で新商品開発セミナー（図 1）を行った．セミナーでは，人にやさしいものづくり（＝人間生活工学）の考え方，必要性，進め方，実践事例等が解説され，土鍋や急須，食器の持ちやすさ評

価等に対する関心度や必要性が深まった．



図 1 新商品開発セミナー

3. 試作提案及び共同研究の実施

研究成果を効果的に紹介するため，『低火度磁器素地の製造技術』においては，半磁器・有田磁器・瀬戸磁器・低火度磁器の焼成色，焼成歪みの比較（図 2）や焼成温度による焼結性や収縮率を測るための試作を行った．

また，『マイクロ波発熱性陶磁器素地の製造技術』においては，その特性を活かした試作を行った（図 3）．

研究紹介後，共同研究先を公募し，表 2 のとおり 1 事業者との共同研究を実施し，低火度磁器の特性を活かした乳児の離乳食用食器のための坯土の改良，色釉薬の調合及びデザイン開発を行った．

* 窯業研究室

** 窯業研究室伊賀分室



図2 低火度磁器土と一般坯土の比較



図3 マイクロ波発熱性陶磁器素地の試作

表1 連絡会議及び連携研究会の概要

日時	内容	場所	参加者数
四日市萬古焼関係連絡会議			
H23.9.6 14:00~	1. 参加機関からの萬古焼関連事業（取組）紹介 2. 施設見学 等	窯業研究室	10 機関 15 名
伊賀焼関係連絡会議			
H23.10.5 14:00~	1. 参加機関からの萬古焼関連事業（取組）紹介 2. 施設見学 等	伊賀焼伝統産業会館	8 機関 10 名
四日市萬古焼連携研究会			
H23.11.9 15:00~	1. 研究成果発表 低火度磁器素地の製造技術 マイクロ波発熱性陶磁器素地の製造技術 2. 研究成果に関するディスカッション 等	窯業研究室	20 名
伊賀焼連携研究会			
H23.11.29 13:30~	1. 研究成果発表 低火度磁器素地の製造技術 マイクロ波発熱性陶磁器素地の製造技術 2. 研究成果に関するディスカッション 等	伊賀焼伝統産業会館	16 名
伊賀焼・四日市萬古焼連携研究会			
H24.2.22 14:00~	1. 新商品開発セミナー 【テーマ】人にやさしいものづくり（人間生活工学）入門編 【講師】一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子氏 【内容】人にやさしいものづくり（人間生活工学）の考え方、 必要性、進め方、実践事例等の解説 2. 人間生活工学に関するディスカッション 等	窯業研究室	21 名

表2 共同研究の概要

期間	研究課題	共同研究先
H24.1.6 ~ H24.3.30	低温焼成磁器による新商品開発	四日市萬古焼製造業者

4. まとめ

本事業の中で開催した連絡会議は、関係機関が一堂に会する情報交換の場であり、連携して効果的に支援を考える場としても有意義であったため、次年度以降は春と秋の年2回開催を目標に継続していき

たい。

また、当室が保有する研究成果を積極的に紹介する場を設けて実用化を図るとともに、共同研究による新商品開発を進めていきたい。